

八幡市市民協働活動センターだより

令和2年 12月 - 第 25号 -

発行：八幡市立市民協働活動センター
(運営：特定非営利活動法人八幡まちづくり協会)

登録団体の活動ニュース

「八幡の歴史を探究する会」

1. 令和2年度の活動状況（その3：10月～12月）

(1) 11月例会（講演と交流の集い）の開催—11月7日（土）

「石清水八幡宮と松永久秀、そして明智光秀」

—鍛代敏雄氏（東北福祉大学教授）講演会— 参加者 40人（満席）

(2) 八幡の歴史を学ぶ連続学習会—11月11日（水）

第27回：テーマ「松花堂昭乗書状」

(3) 12月例会（歴史探訪ウォーク）の実施—12月2日（水）

「八幡の古寺巡礼8」男山四十八坊跡を巡る。 参加者 23人

- ・新型コロナウイルス感染症対策に留意しながら、男山山上の主要な坊舎跡を巡って、当時を偲びました。

(3) ホームページの運営 URL：<http://yrekitan.exblog.jp/>

今後の予定

- ・1月13日（水）八幡の歴史を学ぶ連続学習会（第28回）
- ・2月17日（水）会員研究発表「近世八幡の歴史に興味は尽きない！」
- ・3月10日（水）八幡の歴史を学ぶ連続学習会（第29回）



11月例会（講演と交流の集い）
場所：文化センター



12月例会（歴史探訪ウォーク）
場所：男山山上

「八幡自然塾」

ホッと一息

こんなん知ってた？スズメの耳の穴



陸上に棲む哺乳類で耳を持たないものは知らない。それに、彼らの耳の穴が何処にあるか見れば分かるものだ。同様に、鳥類で耳を持たないものは知らない。ところが、何処に耳の穴があるか見た人は少ないのではなかろうか。要するに耳の穴は耳羽(じう)と呼ばれる羽根で覆われていて気が付かないものである。それが風の吹き回しか何かで、ひょいと見えることがあるのである。(眼の斜め左下に見える丸い穴)

センター施設利用のご案内

活動センター施設（団体活動室及びコピー機、印刷機、ロッカー等）をご利用いただくには、団体登録（無料）が必要です。

<登録にあたっての注意点>

- ◎活動内容がNPO団体等の市民の自主的で営利を目的としない社会に貢献する活動であること。
 - ◎活動センターの目的の一つである「団体同士の連携やネットワークづくり」「施設運営」に協力できること。
 - ◎利用禁止事項の遵守
政治・宗教・営利目的活動、公の秩序又は公序良俗に反する活動をしないこと。
- 以上の注意点を了承いただき、登録申請書、規約、活動の分かる資料とともに活動センター事務局スタッフまでご提出下さい。

<新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のお願い>

- ◎現在、5～10名で活動センターをご利用の場合、活動室2をご案内しております。尚、11名を超える参加者での利用は制限しています。
- ◎施設ご利用の際には、十分な換気、ソーシャルディスタンスの確保、マスク着用や咳エチケット、アルコール除菌の徹底等をお願いしています。
- ◎上記の注意事項を徹底することが難しい利用については、お申込をお断りする場合がございますのでご了承下さい。

参 考

京都府 感染拡大予防ガイドライン（例） https://www.pref.kyoto.jp/kentai/news/documents/guideline_rei_200907.pdf
厚生労働省 「新しい生活様式」の実践例 https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_newlifestyle.html

「NPO 法人 八幡たけくらぶ」

男山展望台下東側斜面に咲く秋の花（皇帝ダリア）

石清水八幡宮の北側に、京都盆地を大パノラマに一望できる男山展望台があります。その展望台下東側斜面に、私たちのメンバーが3年前から育ててきた数多くの「皇帝ダリア」が今年も花を咲かせ、訪れた人たちの目を引きました。

この花を間近に見た人たちの中には足を止め「すごい、きれい、大きい」等と口にしたり、写真撮影をした方が多かったのではないのでしょうか。

この花は背が高く（3～4m）しかも花径が大きく（15～20cm）、そして花びらが薄ピンクとあって、青空に堂々と映える美しさは必見に値します。

開花時期は例年11月上旬から12月中旬頃で、展望台から東側の緩やかな階段を下り、ケーブル山上駅に通じる参道を歩けば、間近に見ることができます。

来年も皇帝ダリアが皆さんを待っています。心身のリフレッシュを兼ね展望台を訪れてはいかがでしょうか。

皇帝ダリア



展望台から



「やわた観光ガイド協会」

やわたの歴史上の人物”あの人”を訪ねて！

やわた観光ガイド協会では、八幡市観光協会が主催する秋の「文化財一斉公開」に合わせて、ガイドツアーを企画し、11月22日に開催しました。

参加者は25名。当日はお天気に恵まれ、絶好のツアー日和となりました。ツアーは、神應寺、善法律寺、正法寺の3つお寺を巡り、それぞれでそのお寺に関わり合いの深い人物を紹介、そしてお寺を拝観するという内容です。

最初に訪れたのは、八幡市で一番古いお寺の神應寺。石清水八幡宮を創建した行教が開山したお寺です。ここでの“あの人”は、江戸時代の豪商であった**淀屋一族**。淀屋は大阪の淀屋橋にその名前が残りますが、神應寺の建物の修理や、扁額の寄進もしています。そうした関係もあって、神應寺には代々の供養塔があり、淀屋との関係の深さが偲べれます。

次に、善法律寺へ。ここは鎌倉時代に石清水八幡宮の検校を務めた善法律寺宮清が、自分の邸宅を喜捨して開山したお寺です。ここは紅葉寺とも言われるほど紅葉が多く、この日も紅葉が楽しめましたが、その紅葉を寄進したのが宮清の孫娘**良子（よしこ）**。ここでの“あの人”である良子は足利幕府二代将軍義詮に嫁いで、三代将軍義満を産みました。そのため義満・義教・義政と歴代の将軍が何度も参拝し、善法律寺は足利家とは縁が深いお寺となりました。

最後は正法寺。このお寺は、源頼朝の御家人の高田忠国が開山したお寺です。特に、徳川時代に尾張徳川ゆかりのお寺になり、隆盛を極めました。ここでの“あの人”は、尾張徳川の藩祖である義直の母、**お亀の方**です。お亀の方は、正法寺・志水宗清の娘で、一度は嫁いだものの夫と死別、正法寺へ戻って暮らしている時に、徳川家康に見染められ、側室となり、義直を産みました。その後仏門に入り、相応院と名乗り、彼女の寄進で正法寺の伽藍が整備され、現在の残っている建物の多くはこの当時のものです。

ツアー終了後、参加者にはお土産が配られ、無事散会しました。



市民協働活動センター

- 所在地 〒614-8022
八幡市八幡東浦5（旧八幡東小学校 南棟 1階）
京阪バス・コミュニティバスやわた「八幡東浦」
下車北へ徒歩100m ※敷地内駐車場スペースあり
- 電話 075-925-5748
- FAX 075-925-5748
- メール ywt-npo.support@kcf.biglobe.ne.jp
- ホームページ <http://www.city.yawata.kyoto.jp/0000004546.html>
- 開館日と開館時間
月・火・水・金・土 午前9時～午後6時
(年末年始・祝日を除く) ※事務室スタッフは開館日の開館時間入室

市民協働活動センター案内地図

